

#### IV. 平成28年度の外部評価の結果・ 平成29年度事業に対する自己評価

# 1.平成28年度大学教育再生加速プログラム外部評価の結果と今後の取組

SH道場の実施と改善		AP事業自己評価	外部評価委員会の評価	H29年度目標指標	平成29年度必要な対応
1	各教育プログラムは適切に設計・運営・実施されたか	3	3	3	平成30年度SH道場への参加率向上また、前年度のプログラム設計評価シートに記述されている項目にアクティブ・ラーニングのキーワード(反転学習・ルーブリック・eポートフォリオ)が適切に運用されているか検証し、改善を促す。
1-1	学生はSH道場の目標に到達したか	3	3	3	これまで、受講後に実施してきた学生アンケートをプログラムの受講前・受講後の2回実施する。平成29年度は一部の学科を対象に2回の学生アンケートを実施し、平成30年度から全ての学科を対象に受講前・受講後の学生アンケートを実施する。学生アンケートを2回実施することで、到達目標にどの程度近づいたのか検証する。
1-2	教員はSH道場の目標に到達したか	3	3	3	教員アンケート結果から到達状況が低い項目については、学内のシンポジウムで取組の意義を再度確認する。また、到達状況が低い項目に関する研修会などを実施し理解促進に務める。
1-3	次年度のプログラム改善に向けた検証が実施されたか	4	4	4	プログラム設計評価シートの「次年度に向けた対応」欄への記述について、次年度の改善につながるような具体的な記述をコーディネーターに促す。
1-4	実施のための支援(教育改革推進部門、ICT活用教育部門、SH道場コンテンツ作成WG等)は適切に行われたか	3	3	4	SH道場の支援業務を担う院生コーディネーター制度を構築する。また、ICT部門と連携しSH道場院生コーディネーターを対象にした研修会を実施し、eポートフォリオに関するワークショップを実施する。
2	アクティブ・ラーニングの普及				
2-1	アクティブ・ラーニングを学士課程全体に波及させるための環境整備が適切に行われたか	4	3	4	eポートフォリオシステム利用促進支援・事例カードの普及、徳島大学FDカレンダーの配布を普及を通じてアクティブ・ラーニング導入に繋がる環境整備に取り組む。また、アクティブ・ラーニングの導入状況を確認するための全学的な調査を実施する。
2-2	アクティブ・ラーニングを学士課程全体に波及させるための取組が効果的に実施されたか	3	3	4	平成29年度からAPテーマ I「アクティブ・ラーニング」に採択された他の採択校(一部)と共催するAPシンポジウムを実施し、本学以外の視点を踏まえながら学士課程全体にアクティブ・ラーニングを導入するための検討機会を設ける。
3	事業運営の体制				
3-1	AP実施専門委員会の組織構成は、事業目的に照らして、適正なものであったか	3	3	4	平成29年度からAP実施専門委員会の構成員をSH道場の実施プログラムごとに選出する。
3-2	AP実施専門委員会の運営は、事業目的に照らして、適正なものであったか	3	3	3	AP実施専門委員会からコーディネーターへの情報伝達の方法について、工夫・改善策を検討する。
3-3	事業の効果検証に基づき、改善に繋げるためのPDCAサイクルが整備されていたか	4	4	4	AP事業全体を通してPDCAサイクルを継続する。
4	情報公開				
4-1	AP事業の取組を学内へ適切に広報し共有していたか	3	3	3	APテーマ I「アクティブ・ラーニング」のポータルサイトアクティブ・ラーニング・オンライン(以下ALO)の開設とALOでの情報提供を充実させると共に、「SH道場振り返りシンポジウム」への参加者数を向上させる。
4-2	AP事業の取組を学外へ適切に広報し情報提供していたか	4	3	4	APテーマ I「アクティブ・ラーニング」のポータルサイトアクティブ・ラーニング・オンライン(以下ALO)の開設とALOでの情報提供を充実させる。SPOD・大学教育学会・大学教育研究フォーラムにおいてSH道場の取組についての発表を行う。
4：十分に達成できた 3：おおむね達成できた 2：達成が必ずしも十分ではない 1：達成できなかった					

## 今後必要と考えられる取組

- ・SH道場の学修成果の可視化と共有
- ・SH道場の取組と専門教育課程の接続
- ・全学へのアクティブ・ラーニングの普及
- ・院生コーディネーターと連携したプログラムの支援